

## 8 人命救助



救命者(ブイ)を発見! ブイに近づくと、離れた場所でエンジンを中立にして機体でゆっくりと近づき、救命者をエンジンに巻き込まないためだ。

救命救助者に見立てたブイを水中に設定し、それを救助に向かう。低速でブイに近づくため、船の舵が利きにくく難易度の高い試験項目だ。



これが救命救助者に見立てたブイだ。水上で目標確認後、船の左側から救助するか、右側から救助するか、どちらかを申告する。

備え付けのポートフックを使ってブイをゲット! もし、手で掴く距離にブイがあったら、そのままフックを使わずに掴ってもOKだ。

## 9 避行操船

航行中に起こりうる衝突の危険をパネルで示して、対処法を見る。パネルごとに対応が違うので、それぞれに適切な操船をしよう。

見覚えの無いパネルが出てきても焦らずに対処



神田先生が持っているのが避行操船試験用のパネル。このパネルを見て、どういった操船をするかを自分で判断し、実際にやってみるのだ。

見覚えの無いパネルが出てきても、学科講習で学んだ知識を使えば、どういった操船するかはスグにわかるはず。操船中だけじゃなく!

## 10 着岸・離岸

着岸



桟橋から船を出すことを「離岸」。桟橋につけることを「着岸」という。人命救助と同様に低速で行うため、船の舵が利きにくく難易度が高い。

離岸



岸から離れる前にポートフックを使って船を岸に強く押し出す。船尾がぶつかる危険があるので、後進離岸よりも前進離岸のほうが難易度が高い。

岸への進入角度は約30度。早めにエンジンを中立にして、機体で岸に近づき、船が止まったら、最後はポートフックを使って船を岸に近づけよう。

## 4 方位測定



磁気コンパスを使って方位の測定ができるかどうかを見る試験。見慣れないコンパスだが、一度やりかたを覚えてしまえばとても簡単だ。



コンパスは真方位と磁方位を測るための装置。真方位は地球の磁気北を基準とした方位で、磁方位は地球の磁気北を基準とした方位。コンパスの針は地球の磁気北を指すので、真方位と磁方位の差を測定できる。

## 5 発進、直進、後進



最初の発進と後進、後に出る離岸の前は、前後左右の確認の他に船尾の確認もする。船尾側に移動して大きな声で「船尾よし」。



発進や直進よりも、後進のほうがムズかしい。指示された目標に向かって直進、停止した後には後進する。船舶操縦の基本中の基本をチェックする項目だ。

## 6 変針



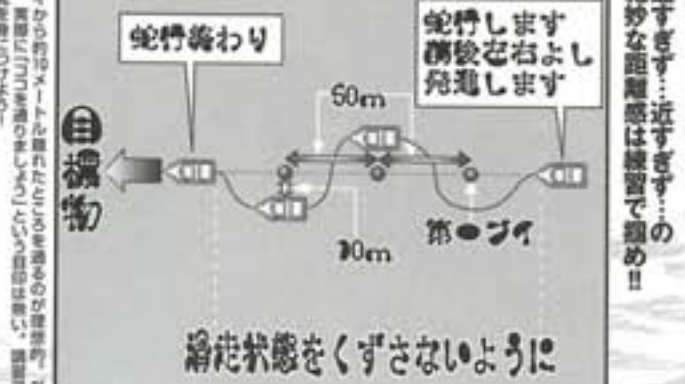
直進中に進行方向を変えること。直進している時の速度を保ったままで、キレイに曲がるかどうか、この項目のカギとなる部分だ。

速度を維持しながら曲がる他にハンドルを急に大きく回さないのもコツ。急ハンドル、急発進、急停止、操船に「急」がつくことは罰法度だ。

## 7 蛇行



先ほどの変針を連続で行うのが蛇行(連続変針)だ。滑走状態を保ったまま、スイスイとブイの間を蛇行するのはなかなか難しい。



進まず...近すぎず...の  
絶妙な距離感は練習で掴め!!